

教校部「三経講読」濱畑僚一

「三経講読」は、浄土三部経の御文に実際にあたって読んでみるという事をします。読むと言っても、相手は漢文ですので、現代語に訳すと、どのような意味になるのかは、検討が必要になります。まして、釈迦牟尼仏陀という仏陀の覚りの内容としての三部経を、理解するのは困難を極めます。

以前より三部経は、浄土真宗学習の基礎とされてきました。行信教校でも「三経部」「七祖部」を分けて、三経から七祖へと学びを進めたようです。

今、私達は親鸞聖人の門流として、三部経に、生死を学ぼうとしています。聖人の教えとは『仏説無量寿経』の第十八願の教えです。釈尊の教えは、阿弥陀仏の第十八願の内容であるというのです。一切の経は三部経に摂まり、三部経は無量寿経に摂まり、無量寿経は四十八願に摂まり、四十八願は第十八願に摂まる。その第十八願を広説した三部経を拝読してみようというのが「三経講読」と言えます。

ところで私は、和上から「言葉には歴史がある」と聞きました。御聖教の一言一言は、釈尊以来の多くの仏教徒の生き様や言葉遣いの歴史が込められているのです。

法然聖人、親鸞聖人の三部経理解は、仏教の歴史の中でも特異なものです。その理解は、いかにして可能なのか。実際に御文に触れながら考えてみたいと思います。参考文献は、註釈版聖典などの御聖教になります。また、藤田宏達師、長尾雅人師等の仏教学の書物は、言葉の歴史を知る助けとなります。本年度は、『仏説無量寿経』から、拝読していきたいと思います。